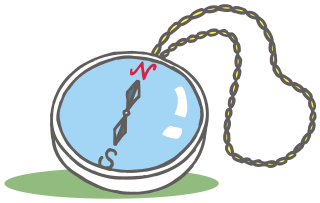
大阪市立柴島中学校　校長室だより　～主体的に学び続ける生徒のために～

羅　針　盤



第 **20** 号　　令和８年１１月２日（月）

◆「自分で決める力」

４月からスタートした令和８年度も、折り返してからすでに１か月という時間が過ぎ去ろうとしています。１学期には、１年生と３年生の宿泊行事や２年生の職場体験学習が実施され、そして、この２学期には、柴中フェスタ文化発表の部に続いて、スポーツ発表の部も無事に終えて、いよいよ３年生の皆さんは、明後日から、一人ひとりの進路獲得に向けた進路相談が始まります。キャリア教育の一環として本校でも取り組まれている高等学校の先生をお招きして実施する高校出前授業などで、よく高等学校の先生がお話しされるのは「進路は、自分の場所を自分で探して自分で決めることが何よりも大切で、そのためには、自分がどんな高校生活を送りたいのかを思い描き、目標をもって一歩一歩努力を重ねていくことが大事なことです。」という言葉。この言葉の中での「自分で決める」＝「自己決定」ということは、主体性を高めていくうえでとても大切なキーワードです。最近の学校教育に携わっている、多くの著名な人たちからもよく耳にする言葉の一つです。神戸大学・西村和雄特命教授と同志社大学・八木匡教授の共同研究からは、２万人の調査を実施したうえで、所得や学歴といったことよりも「自己決定」が幸福度に強い影響を与えるということがわかったそうです。自分で決めること、それは、自らが判断することで、努力をし、目的を達成する可能性がより高くなることにつながって、達成した結果に対しての責任と誇りをもつことに大きな意義がもてるということ。人生とは選択をすることの連続であり、その時々の判断・決定・行動といったものが自らの人生を創っていくこととなるわけです。時には、自己の判断によって思いもよらぬ結果が待ち受けていることもあるでしょう。判断に迷いが生じたときはなおさらのことです。いったい何が正解であったのかすら分からなくなってしまうようなことも多々あるはずです。時代の変化を読みながらも、自分の納得がいく判断をくだすことはとても難しいことかもしれません。それでも、この正解が明確には存在しない不確かな時代に、最適解を目ざして判断・決定し、実行する力を高めていくことには、とても大事な意味があり、生徒の皆さん自身が自分で考え決める機会といったものが保障されて、自分で決めるという経験を積み重ねることによって、人生がより豊かなものへとなっていくはずです。ベストな選択ができないことがあるかもしれません。それでも、できるだけたくさんの人からの意見をしっかりと聞いて、的確な判断材料を準備し、多くのアドバイスを受け入れて、自分自身で考えられるできる限りの迷いといったものを払拭したうえで、最後は自分自身で決定するということが何よりも重要なことです。決して人のせいにするのではなく、自分で選ぶということ、それが自分なりに最も納得したうえで、自分の人生を歩んでいくことへとつながっていくこととなるはずです。自分自身の「幸せ」といったものを大きく左右しているのは、「自分で決める力」であることを是非とも生徒の皆さん一人ひとりに認識しておいてもらいたいと考えます。「自分で決める」力が、つまりは、「自己決定」力といったものが、生徒の皆さん一人ひとりの人生をより豊かなものとしてくれることに間違いはないはずです。

